

備忘録 2023 年夏—地域の戦争展企画に参加して

非核の政府を求める京都の会常任世話人 長谷川千秋

居住地の市民団体・個人が寄り集まって毎夏、「ピースフェスタ木津川市の戦争展」を開いている。1日限りだが中央市民会館を1, 2階ともほぼ借り切って、1階ホールでの写真展「ヒロシマ・ナガサキ—原爆と人間」のほか、今年はまだ映画「はだしのゲン」上映、政府が進めようとしている「祝園弾薬庫のミサイル配備のための強靱化計画」に関する講演など。1階研修室では数々の戦争遺品の展示。内容も年と共に充実してきた。

私は2階会議室での核問題展示のコンセプトづくりに取り組んだ。その中身を書き留めておきたい。



5月のG7広島サミット（先進7か国首脳会議）が終わった段階で、私は今年の核問題展示のテーマを上記のように決めた。岸田文雄首相は各国首脳を広島市の平和記念資料館（原爆資料館）に案内した際、「歴史に残るG7サミットの機会に議長として各国首脳と共に『核兵器のない世界』をめざすためにここに集う 日本国内閣総理大臣岸田文雄」と記帳した。なんという自己満足の文言か。ウクライナのゼレンスキー大統領まで招いて海外メディアの注目を引きながら、被爆地ヒロシマでやったことは何だったのか—。G7サミットの顛末を自分なりに記録に留めておかなければ、と心底思ったからである。

5つの柱立てをし、お二人の実行委員仲間をお願いして大きな見出しとデータの張り出し作業をしていただいた。掲示量は畳3枚分ぐらいになったと思う。以下に内容の概要を記していく（◆太字は掲示見出し）。

柱1.

◆1月、今年も「終末時計」が人類の残り時間を縮めた

人類滅亡まで90秒「終末時計」の残り時間が過去最短に—とうたったBBC・NEWS・JAPANの1月25日の報道を、写真を添えて紹介した。

<https://www.bbc.com/japanese/video-64395562>

続いて—。

◆ロシアのウクライナ侵略は続く。核の脅しも

長期化するロシアのウクライナ侵略の中でプーチンの「核の脅迫」がエスカレートしている状況を、朝日新聞の2つの報道例で示す。

▽23年6月18日付『核の恫喝』—米欧との埋めがたい溝 プーチン氏、過激化する発言

▽23年8月1日「ロシアの『核の威嚇』に危機感や非難相次ぐ NPT 準備委員会が開幕」
朝日新聞デジタル参照 <https://www.asahi.com/>

◆もし「核」が使われたら一驚くべき二つの報告に目を止めて

私たちは「核」の暴走をよそ事とっていないか。2つの報告に目を向けてほしい。

1つはロシア軍が事実上占拠しているウクライナのザポロジエ原発。共同通信記者が、この巨大原発で実際に過酷事故や爆発が起こればどんな被害が想定されるかを様々な角度から取材。

「もしもザポロジエ原発が爆発したら…最悪で『死者数万人、2百万人避難』 爆発物設置？高まる緊張」

と題したレポートを発信していた。共同通信社のHPから47NEWS→47リポーターズの23年7月29日付で掲載。

<https://www.47news.jp/>

もう1つは、長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) が、昨年度からノーチラス研究所、アジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーシップネットワークとの国際共同研究として、「北東アジアにおける核使用リスク削減 (NU-NEA)」を立ち上げた。この地域でどのような条件下なら核兵器が使われてしまうのか、万一使われてしまったらどのような影響がでるのか—こうした問いに答えることで核抑止論の持つ潜在的なリスクを明らかにし、2度と核兵器が使われないよう具体的な施策の提言につなげることが大きな目的という。

このプロジェクトの2年目の報告書を23年3月に発表している。要旨全文は下記URLから。

https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Year_2_NU-NEA_Report_J-Summary_2303.pdf

マスコミも注目。RECNAのHPでは、NHK、共同通信など多くの報道内容を紹介している。私どもは長崎新聞、NHKテレビの報道を展示させてもらった。長崎新聞の記事は下記HPから「ピースサイト」関連記事23年4月8日付に載っている。

見出しにぎょっとする。

「北東アジアでの核使用リスク 数百万人が死亡の恐れ 長崎大レクナ試算」

<https://www.nagasaki-np.co.jp/>

柱2 ◆5月、被爆地広島でG7 広島サミット開催



(首相官邸HPから)

この写真に見覚えのある人は多いだろう。5月19日、広島市で開催したG7広島サミット。

全国紙、地方紙を問わず日本の大半の新聞が翌 20 日付の朝刊で、首脳たちが平和記念公園で記念撮影したこの図柄の写真を添え 1 面トップで報道した。それから 3 日間、もちろんテレビも連日、相当な時間、サミット報道に明け暮れた。

首相官邸 HP には「G7 広島サミット総理の取組」という公式特集欄があるので参照されたい。https://www.kantei.go.jp/g7hiroshima_summit2023/index.html

私は、以下 4 つの文脈で広島サミットとは何だったのかを考える材料を展示した。

- ① 平和記念資料館で被爆者の証言も聴く。しかし、全面非公開
- ② 議長の岸田文雄首相がまとめた「広島ビジョン」を発表
- ③ 「核抑止力」依存を肯定。核禁条約にも触れず、各界の批判高まる
- ④ 岸田首相にはもう 1 つの顔がある。米雑誌「タイム」の表紙に

①から③までについては、以下の解説をつけた。



5 月、広島で行われた G7 広島サミット（先進 7 개국首脳会議）は、被爆地出身の岸田文雄首相が全力投球、ウクライナのゼレンスキー大統領も参加するなど海外メディアからも注目され、日本国内では連日、大きく報道されました。注目された 1 つは、核保有国 3 カ国を含む首脳たちを原爆資料館に案内し、被爆者の体験も聞いてもらう試みでした。しかし、被爆の実相を詳しく伝える本館には入らず、何点かの展示品を選んで並べ、岸田首相が説明した模様です。被爆者の小倉桂子さんの英語による被爆体験と核廃絶への願いを含め、入館時間はわずか 40 分。しかも小倉さんを含む関係者全員がオフレコとされ完全非公開でした。（机上の報道資料参照）

もう 1 つは、岸田首相がまとめた G7 では初めてという核軍縮に絞った声明「広島ビジョン」の発表でした。しかし、被爆者という言葉もなく、核兵器禁止条約にも言及せず、なによりも「我々の安全保障政策は、核兵器は、それが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、並びに戦争及び威圧を防止すべきとの理解に基づいている」と核抑止力を認める一節を入れたことで、「核兵器は絶対悪」と言い続けてきたヒロシマ・ナガサキの長年の訴えに背を向けたことです。被爆者をはじめ核廃絶に取り組む多くの市民・団体等からは厳しい批判の声が上がりました。それは、8 月の広島、長崎の「平和宣言」に反映されていきます。広島ビジョンでメディアの評価は分かれ、全国紙の読売、日経、産経 3 紙は肯定的、朝日、毎日、東京などの全国紙、ブロック紙、多くの地方紙は批判的でした。（机上の各界発言、報道資料等参照）

▼①～③で貼り出した関連資料。

①では、原爆投下国の現職大統領の広島訪問は 2016 年のオバマ氏以来。今回は同じ核保有国の英仏を含む各国首脳を原爆資料館に案内し、被爆者の話を聞くというので、大きな関心と呼んでいた。展示では、外務省が公表した、資料館訪問後に各国首脳がずらりと並んで署名した芳名録記帳内容（原文と仮訳）を、各人ごとに貼り出した。

だが、その他は政府側から何の説明もなし。5 月 23 日付の地元紙・中国新聞、24 日付の朝日新聞などによれば、首脳たちは被爆の惨禍を伝える本館には入らず、本館の被爆者の遺品など若干の展示物を東館に移し、岸田首相が説明する特別な見学対応がとられたという。事前の折衝でオフレコも含めてアメリカの厳しい注文と、それへの忖度があったのだろう。首

脳たちが見た遺品で分かったのは、事後にスナク英国首相が会見の際、「ねじれた三輪車を見た」と明らかにしたのと、ウクライナのゼレンスキー大統領が見たと言った「人影の石」だけだ。滝川卓男・資料館長も事後会見しているが、「G7 首脳がそろって視察し、大変有意義だった」と語りながら、自身が同行したかどうかさえ明らかにしなかったという。

首脳たちに被爆体験を英語で話した小倉桂子さん（85）＝平和のためのヒロシマ通訳者グループ（HIP）代表＝が、すんでから記者たちに囲まれて面会の様子を語っている話を貼り出すしかなかった。8歳の時、爆心地から2・4キロの自宅で被爆。爆風で吹き飛ばされた自らの実体験や、放射能という核兵器の持つ非人道性を伝えるため2歳で被爆し10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんと折り鶴のエピソードも紹介した。「被爆者は核兵器のない世界を見たいと願ってきたが、いまだに実現していない」と切ない思いも正直に伝えたという。

小倉さんの証言を含めて首脳たちが原爆資料館にいたのはわずか40分。オバマ氏は10分だったと比較してもほとんど意味はなかろう。私たちの展示では、「非核の政府を求める京都の会ニュース」23年7月15日号に載った、同会常任世話人会共同代表の被爆者花垣ルミさんが友人でもある小倉さんからリアルタイムで送られてきた「ライン」のメール内容を紹介した。被爆体験を語るのに当初与えられた時間はたったの5分だったという。花垣さんは「それでも小倉さんは精一杯話したそうです。質疑応答もあって実際には20分から30分ぐらいはあったのですが、その内容は『外交問題になるから話してはいけないと言いつけられているとか』…。

なんとなく救いに感じたのは、カナダのトルドー首相が、展示内容をじっくり見たいと希望し、滞在最終日の5月21日午後、原爆資料館を再訪していたことだった。これが分かったのは翌月の8日。カナダ大使館も日本政府も「非公式な訪問なので詳細は差し控えたい」だった。

②と③は、今回のG7広島サミットで採択された「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン（2023年5月19日 於：広島）」をめぐる展示だった。解説文で触れたように、今回サミットの最大の問題点になった文書についてである。

サミット最終日の5月21日午後、わざわざ平和記念公園を舞台に岸田首相が行った閉幕にあたっての記者会見でも、G7として初めての核軍縮に焦点を当てた広島ビジョンを発出できたと強調、「被爆の実相や平和を願う人々の想いに直接接触したG7首脳が、このような声明を発出できたことに、歴史的な意義を感じる」とまで述べた。

（会見記録は→） https://www.mofa.go.jp/mofaj/ms/g7hs_s/page1_001721.html

A4用紙で4枚の広島ビジョンを一読し、「2022年1月3日、米ロ中英仏の核保有5大国首脳が発表した共同声明を想起し」とあったので、その原文にあたると、ビジョンが文中で使った「核戦争に勝者はなく、核戦争は決して戦ってはならないことを確認する」という言葉も、私の解説文でアンダーラインをつけた文言も、この5大国共同声明で使われたものほとんど同じだった。

核戦争に勝者はなく…のフレーズは1985年11月、レーガン米大統領とゴルバチョフ・ソ連書記長が行った首脳会議後の共同声明で使われ、この声明がその後の米ソ核軍縮進展の引き金になったことで有名だが、22年1月声明は、核兵器不拡散条約（NPT）上の特権にあぐら

をかき、核兵器禁止条約にも背を向ける現核保有 5 大国が「核抑止力」を誇示して開き直ったものだ。

核禁条約の誕生に貢献しノーベル平和賞も受賞した NGO・核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) のフィン事務局長(当時)は「彼らは『素敵な』声明を書いているが、実際は正反対のことをしている」とツイッターで批判した (22 年 1 月 4 日、東京新聞)。グテーレス国連事務総長も「核リスクを排除する唯一の方法は、すべての核兵器を廃絶することだ」とくぎを刺した (同 5 日、朝日新聞)。

翌月には、この声明の価値は紙切れ同然になった。当事者である 5 大国の 1 つロシア自らが核使用も辞さぬと脅しながらウクライナに侵略したからだ。にもかかわらずロシア非難はするが、核抑止力に固執する広島ビジョンに、広島、長崎の被爆者をはじめ強い怒りの声が噴出したのは当然だった。

なお、岸田首相の締めくくり会見では、参加していた記者の 1 人が追加質問に応じるよう求めたが容れられず、「総理、逃げるんですか」と迫られた首相が演壇に戻り、約 3 分間しゃべるハプニングがあった。後日、ニュースサイトに投稿したこの記者の話は→

<https://dot.asahi.com/articles/-/194853>

市民は G7 広島サミットをどう受け止めたのか—私たちは②③の展示で、3 人の声を紹介した。

1 人はカナダ在住の広島の被爆者、サーロー節子さん (91)。半世紀以上、世界各国で核兵器廃絶を訴え続けてきた。広島サミットを前に 3 年半ぶりに来日。リニューアルされた原爆資料館にも事前に訪れ、車いすで約 2 時間かけて回っていた。サミット終了後の記者会見で、広島ビジョンについて「広島の人たちはリーダーたちに広島で開かれる意味を理解して、原爆資料館で見て考えこの街で起きたことを理解してほしいとの期待が強かったと思うが、声明にはリーダーたちの感じた体温、脈拍が感じられなかった。国際社会には核兵器禁止条約があるが、声明ではひと言も触れておらず、驚き、失望した」と話した。(NHK テレビ 23 年 5 月 21 日夜放映など)

広島市・広島平和文化センター・朝日新聞社主催で 7 月下旬、広島で開かれた国際平和シンポジウム「核兵器廃絶への道～被爆地が核戦争の『歯止め』となるために」で基調講演した核禁条約の国連交渉会議議長エレイン・ホワイトさんは「苦痛と困難に耐え、正義と人道の世界的な強力な象徴として平和と変革を求めるヒバクシャの不屈の精神から、私たちは学ぼうではないか」と訴えた。

同シンポジウムでの「特別トーク」で、作家の高村薫さんは「核廃絶は、人類と地球のための唯一の選択肢。何十年も何百年もかけて機運を醸成する時間は残されていない。私たち生活者が持っているのは、新たな被爆者を出してはならないとの信念。これこそ核廃絶への道になる。そう信じて、私も知恵をしばらく続けます」と語った。(詳細は 23 年 8 月 6 日付朝日新聞「核といのちを考える」特集ページ参照)

G7 広島サミットのコーナーでは、その評価をめぐる各界の反応を参考資料とし展示前の机上に置いたが、ぜひ目を通してほしいものを 1 点だけ、と問われれば、

フリーランス記者・宮崎園子さんの以下のインタビューを挙げたい。

『「広島は国とは違うんだ』と平和宣言で示せ』

95 歳の元広島市長が振り返る G7 サミット

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/ea31b4c4bd86ae9cada0c3b566db5c642949d999>

④については以下の説明文を出した。



◇
米国の雑誌「タイム」が5月22・29日号の特集記事の一部を事前にウェブサイトで公開。表紙で「日本の選択」と題し「岸田首相は自国を真の軍事大国にしたいと望んでいる」と紹介して物議を醸しました。ウェブ版はその後記述を少し変えましたが、出版される方はそのまま。当然でしょう。「敵基地攻撃能力」の閣議決定、「専守防衛」を空洞化し、軍事予算を5年間で43億円。世界第3位の軍事大国にしようとしているのですから。国民の声も聞かずに。

この1項目は、以下の2つの論考と報道を読んで、掲示を決めた。岸田首相の何とも言えない表情が、展示のアイキャッチャーになると踏んだ。

水島朝穂・早大教授（憲法）HPの「今週の直言」23年5月15日号

<http://www.asaho.com/jpn/bkno/2023/0515.html>

NHK テレビニュース「NHK 政治マガジン」23年5月12日号

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/lastweek/99035.html>

柱3 ◆8月、広島、長崎原爆の日。両市長が平和宣言

松井一実広島市長「核抑止論の破綻直視を」

鈴木史朗長崎市長「今こそ核抑止依存からの脱却を」

被爆地・広島で5月に開かれたG7サミットで、岸田首相が「G7としては初めての核軍縮に絞った声明だ」と発表した「広島ビジョン」が「核抑止力」にこだわったことで、被爆者をはじめ国内での批判の声はじわじわと広がった。読売新聞は6～7月、全国の被爆者100人から聞き取りしたアンケート調査結果を、広島、長崎の原爆投下から78年を前に7月31日朝刊で特集ページにまとめたが、G7広島サミットについては「サミット 評価と落胆」の見出しがあった。首脳らの原爆資料館視察と被爆者の証言については63人が「評価できる」と回答したが、訪れた際の様子を非公開にした日本政府の対応については97人が「公開すべきだ」と回答。G7サミットの首脳声明については62人が「評価できない」に上った一方、「評価できる」は11人だったという（詳細は同特集参照）。

被爆地の中国新聞が全国各地の被爆者団体に協力を依頼したアンケートでも、G7サミットについて回答団体の52・9%が核兵器廃絶へ「成果がなかった」と受け止めていた（詳細は7月30日付同紙）。

「長崎もまた、核抑止論からの脱却を訴えた」で始まる8月10日付の中国新聞社説は「長崎原爆の日 脱・核抑止論へ共に行動を」と題し、両親ともに被爆者という被爆2世の鈴木史朗市長が就任後初めての平和宣言で「核保有国と『核の傘』に依存する国のリーダーに向け、はっきりと『勇気をもって決断すべき』と求めた姿勢は心強い」とし、「広島原爆の日」に核抑止論を否定した広島市の松井一実市長、広島県の湯崎英彦知事と同じく、被爆地が今、発信しなければならないメッセージと判断したのだろう。なおのこと核戦争の危機を痛感させられる」「長崎の平和宣言が強調したように、米国による原爆投下後の78年間、核兵器を

使わせない『抑止力』となったのは被爆者の声である。身をもって非人道性を訴え続けてきたからに他ならない」と論じていた。

両市の「平和宣言」は、市長が最終的に執筆する前に有識者たちとの懇談会（広島市）や起草委員会合（長崎市）が行われる。そうした場でも G7 サミットの「核抑止力」論への強い反発の声が出ていた。「広島ビジョン」と正面から取っ組み合った今年の広島、長崎「平和宣言」は、私たち市民がいま何をすべきかを考える大事なメッセージだ。そう思い、両平和宣言全文の切り抜き（毎日新聞）を板貼りして掲示した。両市の HP にももちろん載っている。

2023 年広島平和宣言全文

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/216675.pdf>

2023 年長崎平和宣言全文

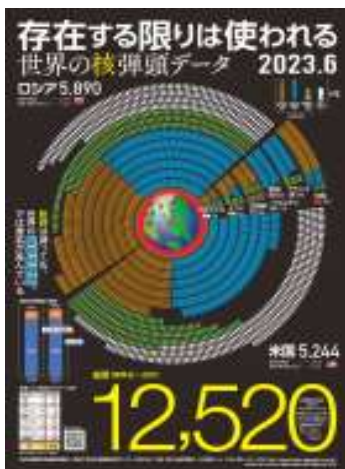
https://www.city.nagasaki.lg.jp/heiwa/3070000/307100/p036984_d/fil/sengen-jp.pdf

なお、マスメディアで働く美浦克教氏のブログ「ニュース・ワーカー 2」が「『核抑止』を否定する新聞、肯定する新聞～G7 後の広島原爆の日『被爆国の新聞』の記録」（23 年 8 月 9 日）という興味深い論考を出している。URL は下記の通り。

<https://news-worker.hatenablog.com/entry/2023/08/09/121756>

柱 4◆世界の核弾頭は今 12520。

全国の被爆者手帳保持者は 11 万 3 千人。



戦争展で毎年おこなっている「クイズスタンプラリー」の質問の 1 つが今年は「世界中に核兵器が何発あるか」だったので、ヒントになる資料を貼り出した。核弾頭数データは長崎大核兵器廃絶研究センター（RECNA）が発表した最新ポスターを使わせていただいた。

<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/topics/43620>

被爆者手帳保持者データは厚労省資料によった。

◆「はだしのゲン」「第五福竜丸」を広島市の平和教材からカット、なぜ？

今年 2 月、広島市教委が、広島市立小中高の教師用に 10 年前作った「平和教育プログラム」の副読本「ひろしま平和ノート」を改訂する中で、「はだしのゲン」（小 3）と「第五福竜丸」（中 3）を削除したことが明らかになって大きな議論を呼んだ。しかしメディアの報道だけでは、市教委が「平和教材」をどう変えようとしているのか、平和・反核教育への国の考え方が投影されていないか—など論点が明確になっていない。6 月に市民団体「教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま」が開いたシンポジウム「『はだしのゲン』削除だけではない—これでいいのか！？ヒロシマの平和教育」にネット参加し、議論で使われたパワーポイントや「平和教育プログラム」の新旧比較分析資料などのいくつかを、同団体の了解を得て展示し、問題提起した。

同会はその後、「ヒロシマの心『はだしのゲン』を平和ノートから削除しないで」と市教委に求める change.org のネット署名活動で全国から 59755 筆集め、9 月に市教委に請願書を提

出した。

教科書ネット広島ブログ <http://knethiroshima.fc2.net/> でこれまでの様々な動きなどを知ることができる。

柱5◆核廃絶へ一歩踏み出そう！

この夏思ったこと。大事なのは、核兵器廃絶は核のボタンを押す権力者の善意に頼ってはい成し遂げられない。地球市民が作り出す国際世論がカギだということ。展示はその願いを託し3つの発信で締めくくった。

▼「伸ちゃんの三輪車」、めいが祖父の苦しみ語り継ぎ証言活動へ



3歳で被爆し、原爆資料館に寄贈された「伸ちゃんの三輪車」で知られる鉄谷伸一ちゃん。めいの小西佳子さん（42）が、息を引き取った伸ちゃんを自転車と共に自宅庭に40年間埋葬、毎朝線香を供え弔い続けた祖父（1998年没）について語る活動をこの夏から始める。原爆が家族にもたらす長い苦しみを知ってほしいとの願いをこめる。この三輪車は、G7サミットに参加した首脳たちも見た展示品のひとつ。

▼【核なき世界を日本から】核兵器廃絶日本NGO連絡会

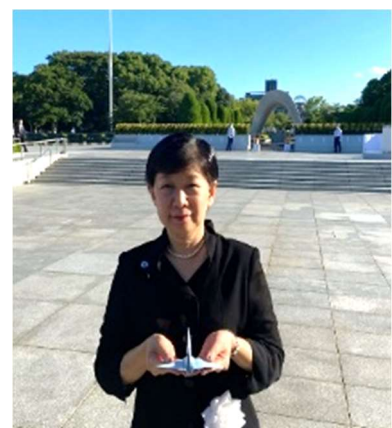
<https://nuclearabolitionjpn.com/>



▼2023 広島平和記念式典に出席した

中満泉・国連事務次長・軍縮担当上級代表の8・6ツイート

核のリスクを排除する唯一の方法は、核兵器を廃絶すること。核による破滅の脅威がこの世から無くなるまで、私たちの努力は続きます。休むことなく。軍縮は夢物語ではなく、より安全な世界を実現する唯一の方法です。私たち皆のために。子供達やそのまた子供たちのために。



(2023年10月4日記)